

平成23年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	児童館助成事業		基本目標	町民等との協働による子育て支援の充実			
担当課(局)・係	健康福祉課	子ども支援係	記入者	濱本 明俊	評価者	井上 敏郎	開始年度 年度
評価状況	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 評価対象外 ※評価対象外を選択した場合は、その理由を下段から選んでください						
	理由	<input type="checkbox"/> 法定受託事務である <input type="checkbox"/> H24年度以降実施しない <input type="checkbox"/> その他(※下段に理由を記入)					

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	町内の乳幼児から高校生とその保護者									
	意図・目的	地域において児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする。									
事業の内容	児童の健全な遊び場の確保、健康増進、情操を高めることを目的とした事業										
主な支出項目	22年度決算額	9,325	千円	23年度予算額	9,325	千円	事業従事者数	H22 0.04	人	H23 0.06	人
	補助金	9,325	千円	国庫支出金	3,108	千円	22年度人件費	252 千円			
			千円	財源内訳	県支出金	3,108	千円	23年度人件費	428 千円		
			千円		地方債		千円	23年度予算額における一般財源の割合(H23)	33.3	%	
			千円		一般財源	3,109	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください			
町の補助事業	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input checked="" type="checkbox"/> 国県補助			補助事業名		児童館助成事業補助金					
	補助交付団体			補助金要綱							
	22年度	補助額	9,325,000	円	補助の形態	国県補助	23年度補助額	9,325,000	円	終期	年度
		団体の決算額	10,542,192	円	昨年度までの補助金見直しの状況・検討委員会での決定事項等						
		補助の割合	88.5	%							
繰越額		0	円								

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 町内の実施施設数	施設利用の要望のある児童を受け入れる施設の設置箇所数を満たす。
	2	
	3	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 職員の配置状況	施設の安全性を考慮し、適切な人員を配置された施設
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	21年度	22年度	23年度
成果指標	町内の実施施設数	目標値	1	1	
		実績値	1	1	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	職員の配置状況	目標値	1	1	
		実績値	1	1	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!

事務事業名	児童館助成事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	---------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	
		自己評価	委員評価
(必要性) 小学生等が自由に遊ぶことが出来る共有のスペースとして開放されていることから、地域では大変必要とされている施設である。	◎目的からして町が行うべきか	2	-
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	-
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	-
	◎事業廃止による影響があるのか	2	-
有効性 緊急時に預けることも出来るので、一時利用時の有効性に優れている。	◎目標に対して成果は得られているか	2	-
	◎すでに目的は達成されていないか	2	-
効率性 保育園に併設していることもあり、多くの施設利用者がある。町からの費用については補助基準額どおりの費用負担としている。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	-
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	-
協働性 ◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)		0	-
合計(最高18点)		16	-

※町補助をしている場合のみ記入

(公益性) 保育所、児童館、児童クラブと地域の子育て事業の中心的役割を果たしている施設であり、地域の子育て支援の拠点として広く町民から活用されている。	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	-
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	-
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	-
合計(最高4点)		4	-
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価 ◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	在宅で子育て中の保護者のサークルの場や放課後児童の遊びの場として、非常に多様性を持った施設であり、継続して事業を実施する。 当面は現状を維持するが、当該施設は西小学校区にあり、東小学校区には同様の施設がないため、検討する必要がある。	今後の方向性			
		事業の方向性 拡充 現状維持 縮小 廃止			○
		廃止	縮小	現状維持	拡充
コスト					

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎利用者がおり、子育て支援の立場からも、継続すべき事業である。
	コスト	現状維持	
	委員評価	-	
	外部評価	-	